



中期経営計画 Look Forward 2023

前澤化成工業株式会社

2021年5月13日

【目次】

1 当社の現状

1. 前中期経営計画「TakeAction2020」の振り返り
2. 業績の推移

2 中期経営計画「Look Forward 2023」

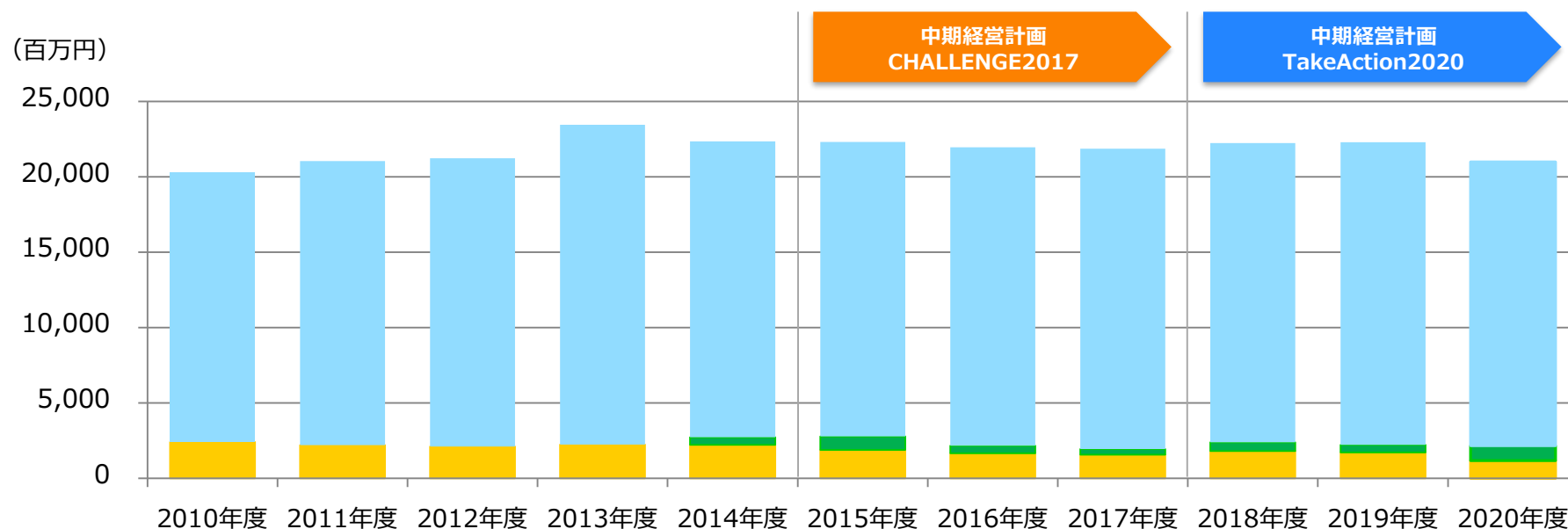
1. 方向性
2. 全体像
3. 数値目標
4. 施策詳細

1 当社の現状

計画		実績	
		できたこと (成果)	できなかったこと (課題)
主要な課題	将来の柱となる事業の創造	○「災害」主に豪雨対策品上市 ○「ビル設備分野」は目途 ○植物工場、インドネシアFRP代替足がかり	○ 本質的な新規事業分野の開拓
	経営基盤の強化	○ 生産自動化・標準化、活動実施 ○ 営業事務の集約	○ 販管システム更改を軸とした、営業事務コストダウン ○ 人件費効率適正化のための諸施策 ○ 水処理分野の収益改善 ○ 各種プラスチック成形分野の収益改善

計画			実績（2021/3月期）
数値指標	売上高	235億円	209.8 億円
	営業利益	11.2億円	9.2億円
	当期純利益	7.7億円	7.5億円
	ROE	2.1%	2.0%

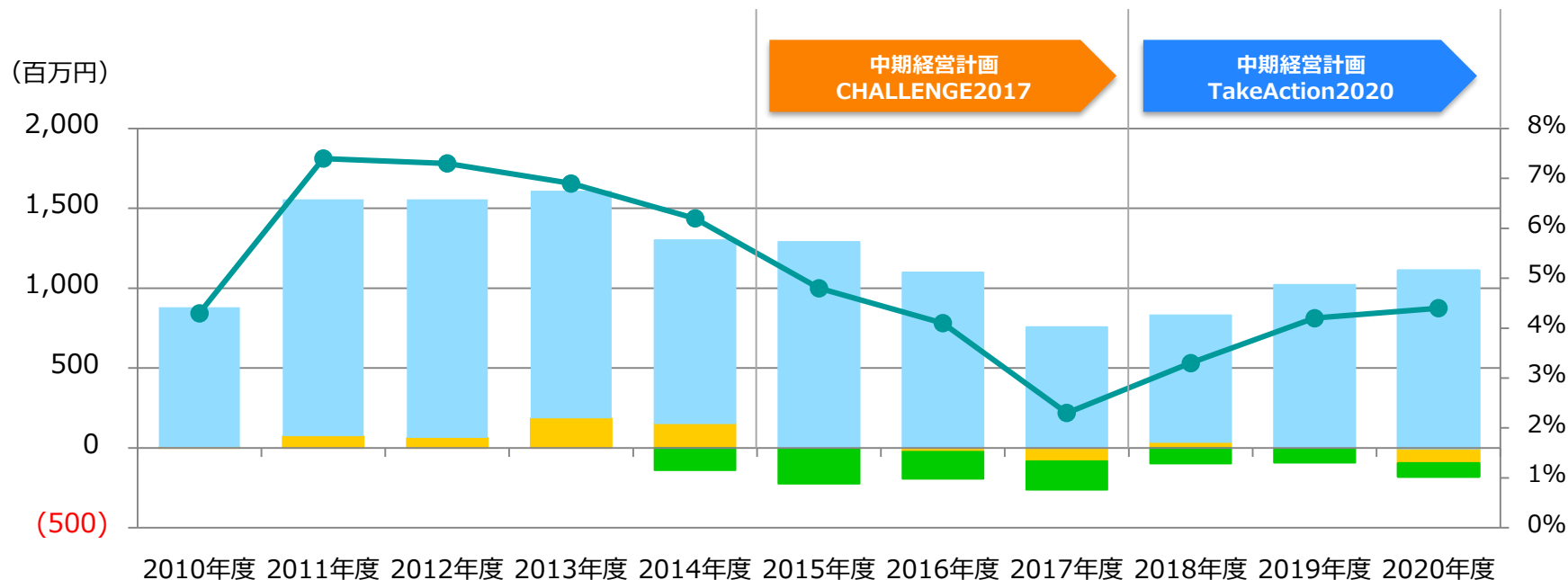
連結業績の推移（売上高）



分野	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
■ 管工機材	17,873	18,848	19,124	21,215	19,618	19,535	19,803	19,926	19,846	20,083	18,818
■ 水処理					502	891	495	367	580	505	999
■ 各種P	2,414	2,239	2,235	2,364	2,328	2,061	1,800	1,864	2,156	2,056	1,564
内部取引	△1	△47	△133	△121	△102	△178	△136	△293	△340	△348	△396
売上高	20,287	21,040	21,226	23,368	22,346	22,310	21,963	21,865	22,243	22,296	20,985

※ 2014年度より住環境改善製品分野を管工機材分野・水処理分野に分割（セグメントの変更）
 ※各種P・・・各種プラスチック成形分野

連結業績の推移（営業利益）



分野	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
■ 管工機材	878	1,483	1,494	1,425	1,147	1,285	1,098	758	793	1,016	1,109
■ 水処理					△140	△224	△170	△177	△97	△92	△80
■ 各種P	34	108	96	177	132	5	△23	△84	38	5	△86
調整	△31	△34	△34	8	22	0	△0	△0	0	0	△12
営業利益	881	1,558	1,556	1,612	1,163	1,066	904	498	734	929	929
● 営業利益率	4.3%	7.4%	7.3%	6.9%	6.2%	4.8%	4.1%	2.3%	3.3%	4.2%	4.4%

※ 2014年度より住環境改善製品分野を管工機材分野・水処理分野に分割（セグメントの変更）

※各種P …… 各種プラスチック成形分野

2 中期経営計画 「Look Forward 2023」

前中期経営計画「TakeAction2020」の方向性

- ① 新製品・新事業の種をまくこと。
- ② 徹底した効率化を行い筋肉質な(利益を創出できる)体質にすること。



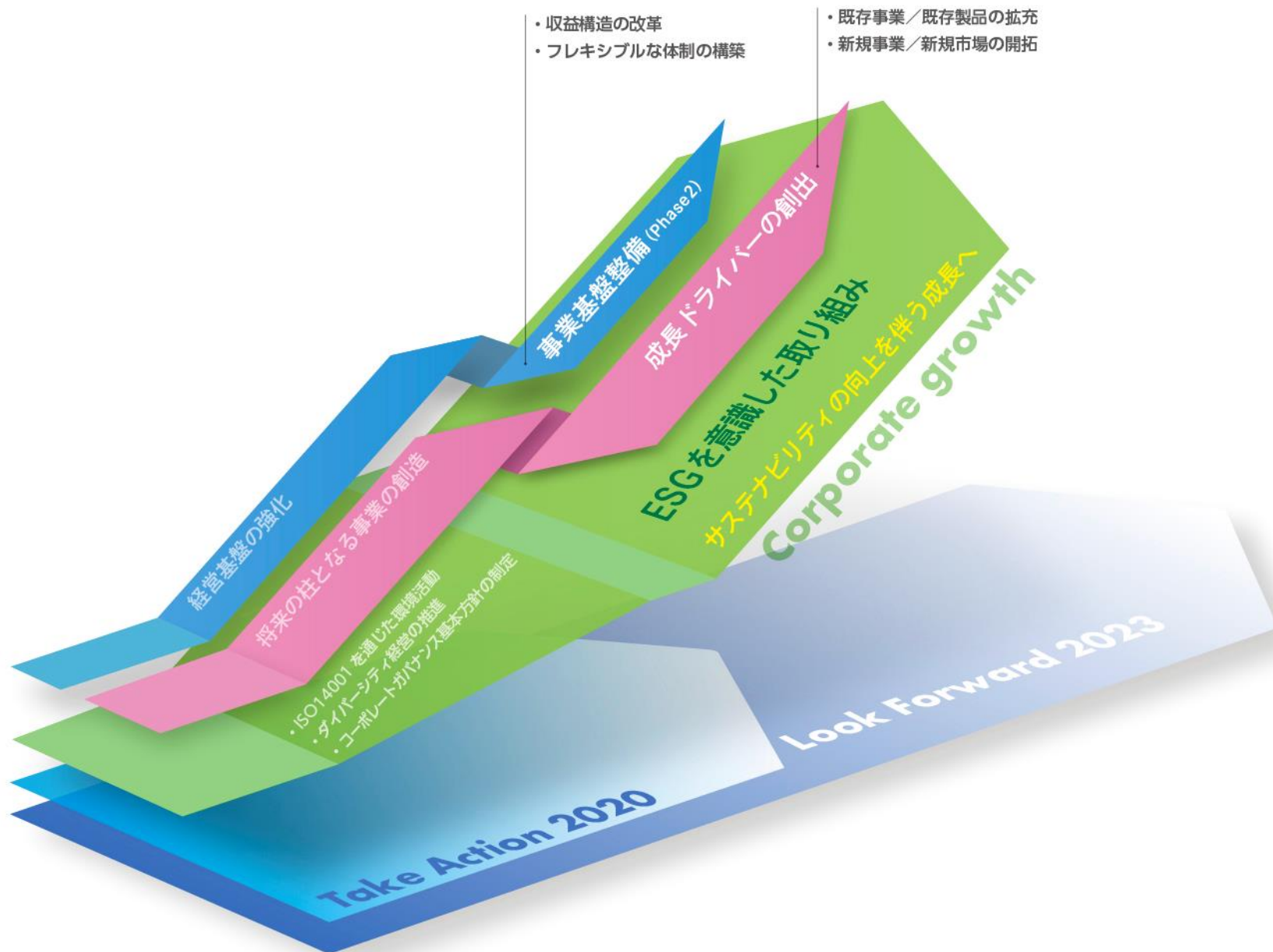
現状

- ① 芽を出しつつあるものもあるが、将来の柱となりそうなものは見出せていない。
- ② 全般的に、目標の途上にある。



中期経営計画「Look Forward 2023」の方向性

- ① 新規開拓、効率化の施策に関しては、TA2020を発展的に継承。
- ② 「ESG」に対しての具体的取り組みを表明し、今後の中長期的な会社の在り方を全社的に考えていく。

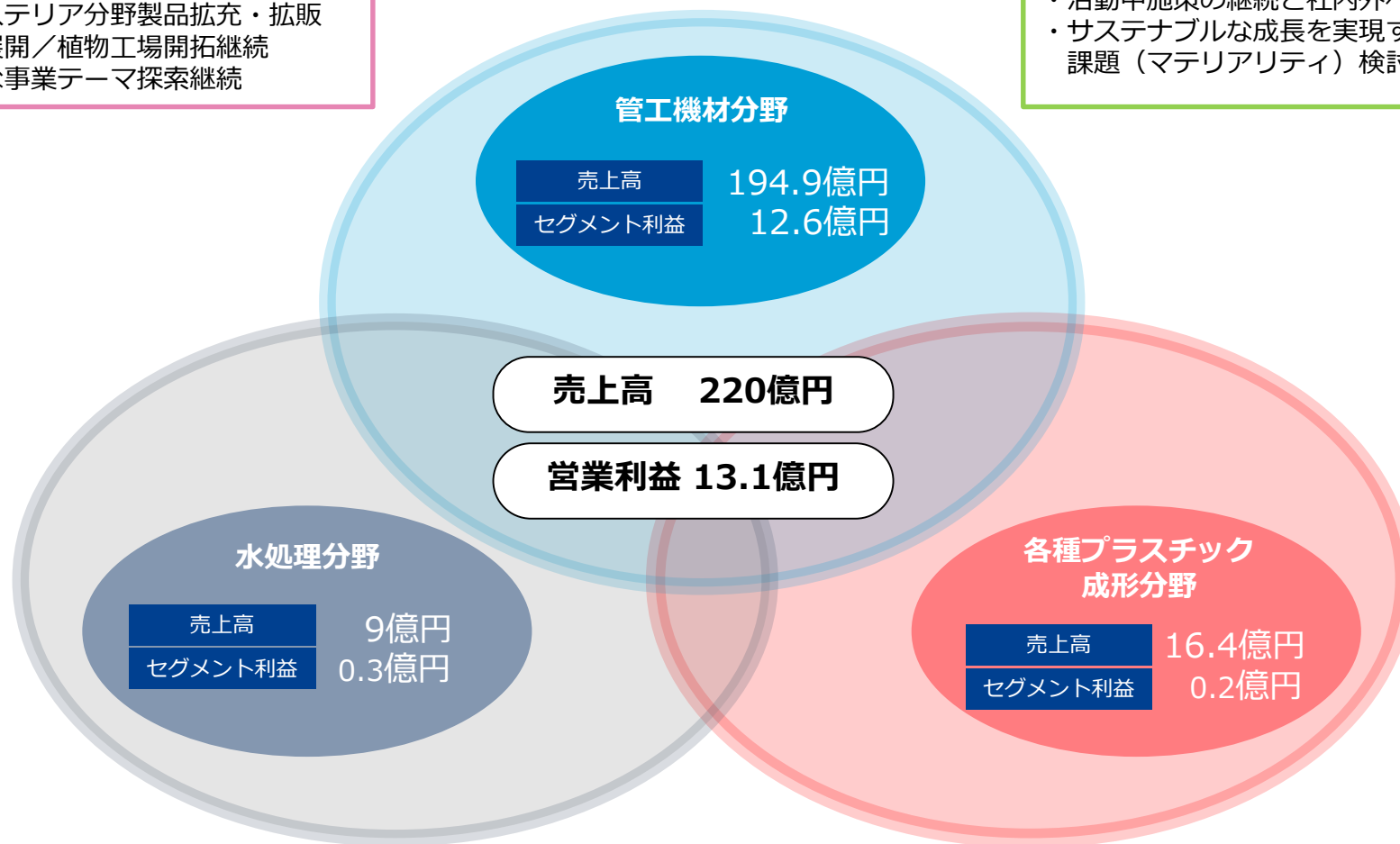


成長ドライバーの創出

- ・ 災害／ビル設備／
エクステリア分野製品拡充・拡販
- ・ 海外展開／植物工場開拓継続
- ・ 新たな事業テーマ探索継続

ESGを意識した取り組み

- ・ 活動中施策の継続と社内外への周知推進
- ・ サステナブルな成長を実現するための
課題（マテリアリティ）検討



事業基盤整備 (Phase2)

- ・ 水処理／各種プラスチック成形分野の収益改善
- ・ 自動化／標準化、既存製品群見直し等による収益構造改革
- ・ フレキシブルな体制構築による働き易さの向上

損益計画

※「収益認識に関する会計基準」適用。

(億円)

	2021年度	2022年度	2023年度
	計画	計画	計画
売上高	212.3	217.4	220.0
営業利益	10.8	11.0	13.1
親会社株主に帰属する 当期純利益	8.4	8.4	9.5
ROE (%)	2.3	2.3	2.6

株主還元

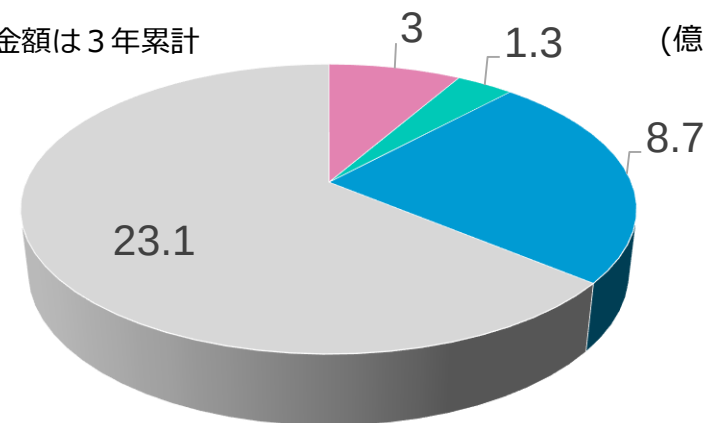
※新中期経営計画「Look Forward 2023」においては、純資産をベースに還元を実施します。配当総額はDOE（純資産配当率）2%程度を目安とします。

	2021年度	2022年度	2023年度
	計画	計画	計画
配当（1株・円）	50.0	50.0	50.0
配当（総額・億円）	7.4	7.4	7.4
DOE (%)	2.0	2.0	2.0

投資計画

※金額は3年累計

(億円)



- 成長ドライバーの創出
- ESG関連
- 事業基盤整備
- 通常投資

中計関連投資

- 成長ドライバーの創出
・・・3億円（研究開発費含む）
- ESG関連
・・・1億3千万円
- 事業基盤整備
・・・8億7千万円
（基幹システム更改・新潟成型含む）

通常投資

- 設備・金型更新等
・・・23億1千万円

ESG関連数値

	実績			目標
	2018年度	2019年度	2020年度	2023年度
エネルギー使用量（原油換算 KI）	4,168	3,908	※ 3,628	2019年度比 △3%
エネルギーの使用に係る原単位 （対前年度比 %）	93.4	98.2	※ 99.1	前年度比 △1%を継続
CO ₂ 排出量（t）	8,107	7,569	※ 6,996	2019年度比 △30%
水使用量（m ³ ）	402,038	340,812	283,502	2019年度比 ±0%
廃棄物の直接埋立率（%）	0.00	0.03	0.00	0%を継続
女性従業員比率（%）	18.5	18.6	19.7	20%目標
障がい者雇用率（%）	1.6	1.6	3.0	法定雇用率+0.2% （2.5%）
有給休暇取得率（%）	56.2	60.3	55.2	65%以上を目指す

※ 速報集計値のため、若干の修正の可能性があります。

ESGを意識した取り組み

① 環境問題への取り組み

- ◆ CO2排出量30%削減（2019年度比）
⇒ 太陽光発電設備導入、非化石証書付き電力の使用 等
- ◆ エネルギー使用量・原単位の低減 等
⇒ 活動中施策の継続と社内・社外周知推進



② 社会(課題)・ガバナンスへの取り組み

- ◆ 活動中施策の継続と社内・社外周知推進
- ◆ 労務関連課題の整理と中長期的方向性の検討
- ◆ 新コーポレートガバナンス・コードへの対応 等

③ サステナブルな成長を実現するための課題(マテリアリティ)について検討

成長ドライバーの創出

▶ 既存事業・既存製品の拡充

① 災害分野製品拡充の継続

- ◆ 「豪雨対策」に関する既存製品群を改めて整理・P R
- ◆ 新製品の開発
- ◆ 「災害用浄水器」リニューアル品の開発

② ビル設備分野の確立

- ◆ 「ビニコア」の拡販継続と新規商材の開拓



③ エクステリア分野の拡充

成長ドライバーの創出

▶ 新規事業・新規市場の開拓

① 海外展開

- ◆ インドネシアにおける活動継続
- ◆ 現地に根差した営業活動実行

② 植物工場

- ◆ ウレタンマットの改良
- ◆ 全般的な事業展開の方向性検討

③ 熱硬化性樹脂

- ◆ 事業化に向けて活動継続

④ 新たな事業テーマの探索を継続

事業基盤整備(Phase2)

▶ 収益構造の改革

① 水処理分野／各種プラスチック成形分野の収益改善

② 自動化・標準化の推進(製造)による原価構造の改革

③ 既存製品群の見直し・強化

④ 物流関連コストの最適化

事業基盤整備(Phase2)

▶ フレキシブルな体制の構築

① 営業事務作業自動化の推進

- ◆ 働き易さ向上
- ◆ 人力作業量の段階的削減

② ペーパーレス化・ワークフローシステム化の推進

- ◆ 無駄の排除
- ◆ スムーズな仕事進捗の支援

③ 多様な勤務体系の導入

- ◆ 働き易さ向上
- ◆ 結果としての生産性向上